

## スプレータイプの小ギク品種 'CM系' の育成とその特性

渡 辺 愛 美・児 玉 勝 雄

(岩手県農業研究センター)

Breeding of Small-flowered spray type Chrysanthemum Cultivars

"CM Series" and their characteristic

Manami WATANABE and Katsuo KODAMA

(Iwate Agricultural Research Center)

### 1 はじめに

岩手県の小ギクは北上市を中心に県下全域で栽培されており、平成12年度(2000年)には生産額が約3.5億円、作付け面積は56haと主要な品目の1つとなっている。現在、栽培に用いられている種苗会社の品種は関東以西の気象下で選抜、育成されたものであるため、開花期の変動や草姿の悪化等、岩手県の気象に適さない品種もある。

また、小ギクに対する消費者の嗜好動向は変化しており、従来の品種より側枝や孫芽の少ないスプレー咲きの小ギク品種の人気が高く、仏花以外の用途に使用される傾向が高まってきている。

そこで、新品種の育成にあたっては、小ギクの需要を更に拡大していくためにも、仏花以外の用途への使用が可能であるスプレータイプで、本県の立地条件に適合した性質のものを目標として選抜、育成した。

### 2 育成経過

(1) 'CM1' は、1993年に10月咲きの桃色スプレーギク 'スージー' と7月中旬咲きの白色小ギク 'めだか' を交雑し、得られた系統から花色が白色の個体 '93-9' を選抜した。さらに、1995年に '93-9' に8月中旬咲きの黄色小ギク 'まなざし' を交雑し、得られた系統から選抜、育成した。

(2) 'CM3' は、1996年に9月咲きの白色小ギク '白鳩' に9月咲きの桃色スプレーギク 'ニコル' を交雑し、得られた系統から選抜、育成した。

(3) 'CM7' は、1996年に10月咲きの白色小ギク '白丸' に9月咲きの橙色スプレーギク 'ケベック' を交雑し、得られた系統から選抜、育成した。

(4) 'CM8' は、1994年に9月下旬から10月上旬咲きの白色スプレーギク 'ハイクリスタル' に10月咲きの黄色小ギク '玉虫' を交雑し、得られた系統から花色が黄色の個体 '94-24' を選抜した。さらに、1996年に '玉虫' に '94-24' を戻し交雑し、得られた系統から選抜、育成した。

(5) 上記4系統について1999年から現地試作を行った結果、いずれも有望であると認められた。

### 3 特性概要

(1) 'CM1' は開花期が8月上旬で草丈は80~90cmである(表1)。花蕾数は '小雨' より少ない。花房形は段咲き又は円筒形である。白さび病の発生度は 'はるか' および 'みのる' より少ない(表2)。花卉は一重、花色(舌状花色)は黄色、芯の色(管状花色)は黄緑色である。葉色は中~淡の間で光沢度は低く、厚さは薄い。茎強度は中程度である(表3)。

表1 「CM系」の開花期と切り花品質

品種	栽培場所	年次	開花期 (月/日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)
CM1	農研センター	1999	7/26	90.4	50.3
	"	2000	7/28	76.7	38.5
	北上市岩崎	1999	8/2	81.1	33.5
	"	2000	8/6	81.9	38.5
CM3	農研センター	1998	8/28	88.9	117.5
	"	1999	9/6	115.3	91.0
	北上市岩崎	1999	9/17	116.3	117.0
CM7	農研センター	1999	9/25	124.5	88.8
	"	2000	9/25	108.5	77.6
	北上市岩崎	1999	9/27	103.2	62.1
	北上市下江釣子	2000	9/28	146.5	196.9
CM8	農研センター	1999	10/2	87.5	80.0
	"	2000	10/2	79.0	67.1
	北上市岩崎	1999	10/5	80.8	45.5
	"	2000	10/3	83.1	72.4

#### 注. 耕種概要

農研センター: 株間8cm, 条間45cm, 2条植え。黒マルチ使用。N,P,K各10kg/10a。

現地: 株間10cm, 1条植え。裸地。

定植期: CM1, CM3 = 4月下旬。

CM7, CM8 = 5月下旬。

(2) 'CM3' は開花期が9月上中旬で草丈は100~120cmである(表1)。花蕾数は 'こずえ' および 'かもめ' より少ない。花房形は平形又は平咲形である。白さび病の発生度は 'こずえ' より少ない(表2)。花卉は一重、花色(舌状花色)は白色、芯の色(管状花色)は緑色である。葉色、光沢度、厚さは中程度である。茎強度は強い(表3)。

(3) 'CM7' は開花期が9月下旬で草丈は100~130cmである(表1)。花蕾数は '花小道' より少ない。花房形は段咲き又は円筒形である。白さび病の発生度は '花小道'

表2 品質特性の比較

品種名	開花期 (月・旬)	草丈	花蕾数	花房形 <sup>*1</sup>	白さび病 発生度
CM1	8・上	中	少	段～円	中
はるか	7・下	中	極少	円	多
みのる	7・下	中	少	段	多
小雨	7・中下	高	多	段	少
CM3	9・上中	高	少	平～平咲	少～中
こずえ	9・上中	低	多	平咲	中～多
かもめ	8・中下	低	中	平咲	少
CM7	9・下	高	少	段～円	中
花小道	10・上	高	多	平咲	中
CM8	10・上	低	少	平	少～中
あずさ	9・中下	中	多	平	中
まごころ	10・上	中	多	平	中

注. 栽培委託農家からの達観調査

\*1 花房形: 円=円筒形。平=平形。平咲=平咲形。  
段=段咲き。

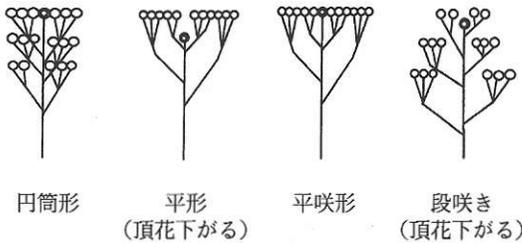


写真1 「CM1」

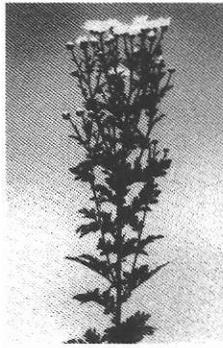


写真2 「CM3」

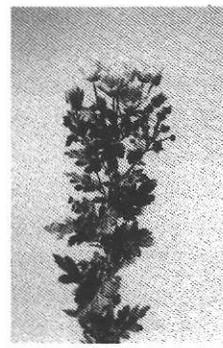


写真3 「CM7」

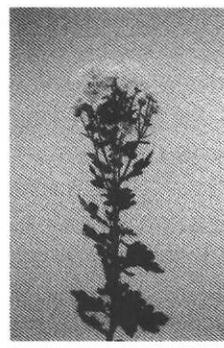


写真4 「CM8」

と同程度である(表2)。花卉は一重, 花色(舌状花色)は桃色, 芯の色(管状花色)は緑色である。葉色, 光沢度, 厚さは中程度である。茎強度は強い(表3)。

(4) 'CM8'は開花期が10月上旬で草丈は80~85cmである(表1)。花蕾数は'あずさ'および'まごころ'より少ない。花房形は平形である。白さび病の発生度は'あずさ'および'まごころ'より少ない(表2)。花卉は一重, 花色(舌状花色)は黄色, 芯の色(管状花色)は緑色である。葉色は濃色で光沢度は高く, 厚さは中程度である。茎強度は強い(表3)。

#### 4 栽培上の留意点

(1) 気象条件やマルチの有無, 施肥量等の栽培条件によっ

表3 「CM系」の品種特性

	「CM1」	「CM3」	「CM7」	「CM8」
舌状花色 <sup>*2</sup>	明緑黄 (2705)	黄白 (2501)	淡紫ピンク (9202)	明黄 (2506)
管状花色	黄緑	緑	緑	緑
花の重ね	1.5列まで	1.5列まで	1.5列まで	1.5列まで
茎径(mm)	5.1	5.1	5.5	5.8
茎強度	中	強	強	強
葉色	中～淡	中	中	濃
葉の光沢度	低	中	中	高
葉の厚さ(mm)	0.4未満	0.4~0.59	0.4~0.59	0.4~0.59
花首長(mm)	47.5	50.4	53.3	46.8
花首の発生角度(度) <sup>*3</sup>	30未満	30~39	30~39	30未満
上位10節以内の2次側蕾 <sup>*4</sup> の出現度(%)	67	80	64	90
葉身長(mm)	57	75	62	55.8
葉幅(mm)	44	58	46	38
管状花部の直径(mm)	12.2	10.8	10.5	12.1
花の直径(mm)	30	36.6	36	31.2
白さび病発生程度 <sup>*5</sup>	中	中～少	中	中～少

注. \*2 舌状花色: JHSカラーチャートによる

\*3 花首の発生角度

(頂蕾と第1側蕾の角度):



\*4 2次側蕾: 側枝に2次的に着生する花蕾のこと

\*5 白さび病発生程度: 観察による

ては開花期が前後するので注意する必要がある。

(2) 白さび病耐性品種ではないので, 白さび病防除は慣行通り行わなければならない。

(3) 'CM1'は, 採花時の気温が高い場合には特に水揚げが悪化するため, 高温時の採花は避ける等の注意が必要である。

(4) 'CM7'は定植が早い場合には草丈が過度に伸長し, 作業性が悪くなるため, 定植は6月上旬から中旬に行う。

(5) 'CM8'は草丈が得られにくいいため, 定植は5月下旬に行う。